

PPM- 方式における栄養管理実施加算への対応

柴田賢三¹⁾²⁾、二村昭彦¹⁾²⁾、東口高志²⁾、伊藤彰博²⁾、児玉佳之²⁾

藤田保健衛生大学七栗サナトリウム薬剤部¹⁾

藤田保健衛生大学医学部外科学・緩和ケア講座²⁾

【目的】当院では2004年4月よりPPM-方式(特徴:各病棟にサテライトチームを設置)を用いた全科型NSTを導入し、栄養管理実施加算の要件を満たす活動を行ってきた。さらに、2006年8月より更なる質の向上をめざし、NST支援システム(以下システム)を導入している。本システムは、1)栄養状態の自動スクリーニング、2)栄養障害度の自動判別、3)NST症例の自動抽出、4)栄養管理法、投与栄養成分を含む栄養管理プランニングの支援などの機能を搭載し、NST業務の標準化・合理化の促進が期待されている。今回、栄養管理実施加算への対応を含め、NST活動におけるシステムの有用性について検討を行った。

【対象・方法】システムを利用したサテライトチームの活動を検討するとともに、NSTメンバーを対象にアンケートを行い、システム導入前後での業務内容の変化について調査した。

【サテライトチームの活動】1-2週毎に栄養スクリーニングを実施し、障害度を判別、抽出、レベル2(中等度栄養障害)症例のアセスメント、プランニング、栄養必要量の充足状態の把握、栄養管理計画書の作成・修正など。

【アンケート内容】「システム導入により、NST活動時間が短縮したか」、「電子カルテへのスムーズな移行への一助となるか」、「病棟全体の栄養不良患者の把握が容易になったか」、「NST回診症例の抽出が容易になったか」、「%AMC、%TSF、BEE、TEEなどの計算が容易になったか」、「栄養管理実施加算の申請が容易になったか(管理計画書の記入漏れなどのチェックが容易か)」など。

【結果】サテライトチームにおいては、栄養障害度の把握が容易になったことでチーム内での迅速な検討が可能となり、NST本回診抽出漏れ防止にも繋がった。さらに必要エネルギー量に対する充足状況等の自動計算や各種栄養指標がリアルタイムで確認可能となり、よりの確な栄養管理を実施することができるようになった。アンケート結果においても、各設問を通してNST活動の標準化・合理化に役立っているとの回答が半数以上を占めていたことから、システムがNST活動において有用なツールであることが示唆された。

【考察】NST支援システムの導入によりNST活動の標準化、合理化が促進し、質を保証しつつ人的負担を軽減して栄養管理実施加算への対応も容易になったと考えられた。